

令和6年度 岡山大学教育学部附属小学校 学校評価書

学校教育目標	人間尊重の精神を重んじ、豊かな創造力とたくましい実践力を身につけた、心身ともに健康な子どもを育成する。						
めざす子ども像	「やさしく」…人を大切に、助け合い、高め合う子ども 「かしこく」…進んで取り組み、豊かに考え、工夫する子ども 「すなおに」…行為を振り返り、自分への気づきを深める子ども						
第4期中期目標	教育課題の解決に向けた実践的提案を行い、地域の小学校教育の充実に貢献すると共に、将来の教育界を担う教員の育成に努める。						
校長	前田 潔	学級数	18学級	児童生徒数	611人	教職員数	62人
学校関係者評価委員	小橋 倫太郎 野崎 幹子 尾上 幸久 長沼 徹 安東 信哉 尾島 卓						

【1. 前年度の評価と課題を踏まえた現状分析】

①授業改善・学習者理解	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者主体の学びを十分に展開することができていない。 ・児童の実態に応じた個別の指導を実践する時間を確保しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師という仕事にやりがいを感じられず、教員を目指す学生が年々減ってきている。
②教育研究・幼小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックやICTを活用した授業が十分実施できていない。 ・異校種でのカンファレンスやカリキュラムの連携が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ④保護者・地域連携 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の多様な価値観を受け、信頼関係を上手く築けない場合もある。 ・特定の地域がない中で、地元根ざした教育を展開しにくい。
③教師教育・教員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり・生徒指導・特別支援・学級経営等の研修を実施する時間の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤環境整備・安全管理・業務改善 <ul style="list-style-type: none"> ・予算が十分に確保できず、環境整備も思うように進んでいない。 ・防災教育や安全点検、研修等を行っているが、まだ十分ではない。 ・様々な業務改善を行っているが、まだ超過勤務が多い状況である。

【2. 自己評価】

評価領域	重点課題	具体的方策	成果指標・評価基準	達成状況の分析	評定
① 授業改善・学習者理解	主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくり	○自分に合う内容や方法を選択及び他者と学び合う場面に授業に設定 ○各教科や総合的な学習と関連した学習の展開	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児2(97)・9(95)・10(94) 保3(94)・教①4(100)・教②4(100) ・児童・保護者・教職員ともに90%以上と大変高く、授業は充実している。	4
	実態に応じた指導の充実と評価の活用	○学級の実態に合った授業の構成と個に応じた指導の工夫 ○評価を活用した単元の展開と指導方法の工夫	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児6(98)・保7(96) 教①2(100)・3(100)・5(92) ・児童・保護者・教職員ともに90%以上と高く、実態に応じた指導ができています。	4
② 教育研究・幼小中一貫教育	学校で一貫した教育観をもった研究の推進	○個別最適な学びと協働的な学びをベースにした授業の工夫 ○ICTを活用した授業づくり ○かけはし学習やなでこ学習の重視	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児15(93)・教①4(100)・13(92) ・児童・保護者・教職員ともに、肯定的な回答が90%以上と高くなっている。 着実に研究の成果は上がっている。	4
	幼・小・中・特支との連携を図り、継続した力の育成	○各校園の保育や授業を共有 ○教員同士のカンファレンス ○直接交流する活動や行事を検討 ○カリキュラムの連携	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児16(90)・保16(97)・教①16(82) ・児童と保護者は90%以上と高くなっている。教職員も昨年度より上がっており、取組の成果が出ている。	3
③ 教師教育・教員研修	教師力向上に向けた研修の充実	○授業づくり研修会の実施 ○生徒指導・特別支援の研修確保 ○学級経営に関する情報共有	教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	教②2(100) ・教職員の肯定的な回答が100%と非常に高く、教師力向上に向けた研修へ真剣に取り組んでいる。	4
	教員の魅力を実感できる教育実習の充実	○児童理解に基づく指導(学習・生活)の機会と成長を実感できる場面の設定 ○保護者との懇談会の実施	教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	教①1(96) ・教職員の肯定的な回答が96%と大変高く、実習生が教職の魅力を実感できるように実践している。	4
④ 保護者連携・地域連携	保護者との連携を密にし、協力した教育活動の充実	○HPの充実や学校・学年便りの発行 ○参観日や懇談会の実施 ○PTA活動の充実	保護者・教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	保10(98)・12(94)・14(90) 教①15(100)・教②16(96) ・保護者・教職員ともに90%以上と大変高く、連携や協力はできています。	4
	大学や地域との連携を大切にしたい教育活動の充実	○大学教員とのカンファレンス ○地域活動への参加 ○大学教員や地域人材を活用した授業づくり	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児12(70)・教①16(82) ・児童の「地域行事への参加」は、昨年度より増えている。教員は、「大学との連携」に課題を感じている。	2
⑤ 環境整備・安全管理・業務改善	学習や生活を現・促進する教育環境の整備	○老朽化部分の修繕 ○教材・教具等、学習環境の充実 ○生活で必要とする物品の購入	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	保1(98)・11(97)・教②14(75) ・保護者は90%以上と大変高くなっている。教職員は、人員の確保やICT機器の充実に課題を感じている。	3
	安全・安心を実現する危機管理体制の充実	○危機意識と安全対応の育成 ○個人情報の取り扱いを徹底 ○緊急時の対応訓練や授業実施 ○委員会の設置や点検の実施	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児4(96)・保13(99) 教①7(100)・14(96) ・児童・保護者・教職員ともに96%以上と非常に高くなっている。	4
	効率化を目指した業務の見直しと働き方の改善	○業務の削減や精選 ○教職員の意識改革 ○ICTを活用した校務の増進	教職員アンケートの肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	教②12(86)・15(64) ・教職員は、働き方改革が十分に進んでいないと感じている。さらなる業務改善を検討していく必要がある。	2

【3. 学校関係者評価】

取組状況に対する意見・要望等	評定
・教職員の工夫した授業づくり(アクティブラーニング)について、児童も保護者も大変肯定的に受け止めている。 ・教職員が児童の実態に応じて適切に指導している状況を、児童も保護者も大変肯定的に受け止めている。	4
・「ICTを活用して、自分に合った学習をすることが楽しい」と感じている児童が多い。 ・保護者は、異学年の交流や異校種の連携に充実感をもっている。 ・児童・教員の交流やカリキュラムの接続など、教職員が感じている可能な連携を実践してほしい。	3
・授業づくり・生徒指導・特別支援・学級経営・食物アレルギーなど、全員が実施する研修の他、自分に必要な研修も意欲的に、教師力向上に努めている。 ・先生方は、実習生が教員の魅力を実感できるよう、熱心に指導し、教育実習の取組を工夫している。	4
・保護者へ誠意をもって対応し、信頼関係を築くことができている。学年便りの縮小や配布物のデータ化については、引き続き理解を求めていく必要がある。 ・大学と連携した取組を検討し、実践していきたいという教職員の思いを実現してほしい。	3
・支援員等の増員やICT機器の補充、ネット環境の安定など、教職員が実感している環境の整備を充実させてほしい。 ・児童や教職員の危機意識の向上や安全への対応は、進んできている。また、個人情報の管理も適切に行われている。 ・校務分掌等、仕事量の偏りはなくなってきたが、業務の削減など、勤務負担軽減は、まだ十分進んでいるとは言えない。	3

⑥生活改善・健康増進・体力向上・行事等の充実	よりよい学校生活を 実現する取組の実施 (生徒指導・特別支援 を含む実践)	○基本的な生活習慣の定着 ○安全で安心な暮らしの確立 ○社会の一員としての自覚と 規範意識や人間関係の育成	児童・保護者・教職員アンケートの 肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児5(96)・7(97)・8(96)・14(77) 保2(97)・5(97)・6(94)・8(97)・9(96) 教①1(100)・6(100)・8(100)・ 9(100)・11(86)・12(97) 教②3(100)・5(82)・6(89)・7(86)・ 8(78)・9(53)・10(89)・11(82)・13(89) ・教職員は、「児童の挨拶が十分では ない。」と感じているが、昨年度より は上がっている。 ・「基本的な生活習慣」「安全で安心な 暮らし」「規範意識や信頼関係」等は、 概ね満足できる状況である。	4	4 ・「基本的な生活習慣の定着」「人間 関係の構築」「係や当番活動の 充実」等は、かなり安定している。 ・早寝早起きなど、児童の8割は 規則正しい生活を送ることが できているが、朝ご飯を食べず に登校している児童も数名いて、 もう少し改善を図りたい。 ・「好き嫌いのない食事」や「運動 遊びの経験」は、8割以上の児童 が意識して過ごしている。 ・体力テストは、毎年、県平均を 上回っており、概ね満足できる。 ・虫歯の罹患率は1割未満で、治療 率は9割以上と、児童も保護者も 健康への意識はかなり高い。 ・学校行事や体験活動において、 児童の思いや考えが生かせる ように指導し、確かな力を育む ことができるよう工夫している。
	健康の増進や 体力の向上に向けた 取組の実施	○栄養バランスの取れた食事の促進 ○規則正しい生活の推進 ○運動の環境や活動の充実	児童・保護者・教職員アンケートの 肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児13(80)・17(86) ・調査は8割以上、体力テストは県平均 より上、虫歯の罹患率は9.6%、治療 率は96.5%で、概ね満足できる。	3	
	自己実現を可能に する学校行事や 体験活動の充実	○成長を支える行事や活動の吟味 ○主体的(自主的)な活動の位置づけ ○思考力・判断力・表現力の発揮	児童・保護者・教職員アンケートの 肯定的な回答 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (60%以上)	児3(98)・保4(99)・教①10(100) ・児童・保護者・教職員ともに、98%以上 と非常に高くなっている。学校行事 や体験活動は、大変充実している。	4	

【4. 総括と次年度の重点課題】

<p>■総括（今年度の成果等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が、学習や生活・行事等へ前向きに取り組んでおり、充実した成果を上げている。来年度は、児童の主体性を重視した活動や学びを多く位置づけ、もっと楽しい学校にしたい。 ・コロナ禍では十分にできなかった友達とのかかわりが増え、トラブルも増加したが、家庭と協力して今後につながる解決を重ねることで、大切な対人スキルを学ぶことができている。 ・教職員は、研究や研修・実習に全力で取り組み、大きな成果を上げている。今後は、「ヘルスプロモーション」に努め、「ワークライフバランス」を実現できるようにしていきたい。 	<p>■次年度の重点課題（※大学への要望を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異校種及び大学との連携をさらに充実させ、一貫教育や研究活動でさらなる成果を上げたい。 ・児童の学習や生活に関する設備・用具・人員及び教職員の労働環境等を整備する必要がある。 ・教職員の超過勤務は、昨年度より5%程度減ったが、まだ一人当たりの月平均は5.5時間以上もあり、さらに勤務環境を改善していく必要がある。来年度も引き続き、対応を検討したい。 ・働き方改革に伴う業務の変更（配布物のデジタル化・学級通信の縮小など）について、再度文書等で保護者へ丁寧に説明していく必要がある。
---	--